

人材育成に関する研究

③外国人の定住の課題と可能性分析（2018年～2019年）

◇概要

中山間地域の担い手不足が深刻化するなか、外国人の就労が散見され、また、将来的には外国人定住の可能性を検討するコミュニティも見受けられるようになっていきます。

本研究は、自治体、NPO等の支援状況を確認するとともに、外国人定住者のヒアリング調査を実施し、中山間地域での外国人定住者の拡大により生じる可能性と課題を整理しました。

◇現状と課題

中山間地域では人口縮小に伴い担い手不足が深刻化することが予測され、身近に就労する外国人と積極的に交流を図り、将来的には定住促進を検討するコミュニティも見受けられます。

他方、県内に居住する外国人については状況を把握できる資料が殆どなく、その就労・暮らし方・地域との関わりや永住意向等についても分析されていない状況にあります。

本研究では、外国人定住者の就労・暮らし方・地域との関わり等についてケーススタディと類型化を試み、定住が進められた場合に生じる課題、定住の障壁等の整理を行いました。

◇研究方法

①島根県に居住する外国人の動向の分析（人数、国籍、その他等について経年変化）

外国人統計等を用い、2012～2017年の市町村別・国籍別外国人数の推移を整理（図1）

②県、市町村、民間団体の支援体制、支援内容等の把握

県、市町村の関係部局、実際に外国人定住者を支援している民間団体にヒアリングを実施し、支援体制、支援内容、支援にあたっての課題等を把握

③中山間地域の市町村の外国人定住者の特徴と生活に係る問題に係るケーススタディ（A市）

県内A市に居住する全ての外国人定住者に対するヒアリング調査を実施し、国籍や在留資格別に、外国人定住者の日本語能力、生活条件、社会的ネットワーク、暮らしで困っていること、災害対応力等を分析しました。

◇研究結果と成果

○A市調査結果を踏まえれば、中山間地域に居住する外国人定住者は、特に、技能実習生、日本人の配偶者、定住者等で、日本語能力、生活条件、社会的ネットワークが弱く、生活問題や職場の問題について行政を含め他者からサポートを得られない者が一定数存在する可能性。また、全般的に自治会などコミュニティとの関わりが弱く、災害時に孤立するリスクが高い。

○他方、中山間地域において、外国人定住者の日本語能力の向上や日常的な相談対応、日本人との交流機会づくり等を行っているのは主に日本語教室等をボランティアで実施する民間団体で構成メンバーの高齢化等が進んでおり、活動の拡大は困難な状況。対して、自治体による支援体制は脆弱であり、左記の民間団体への財政を含む支援も一部に留まる。

○これら課題の解消には、①日本語能力学習機会の充実、②困り事や相談事等をサポートに伝達しやすくする仕組み、③災害時に孤立させない地域の態勢づくり、④インターネットへのアクセス条件の改善の4つの取組が必要で、図2に示す対応体制整備が重要。

研究成果データ

図1 市町村別外国人数の推移と国籍別構成比

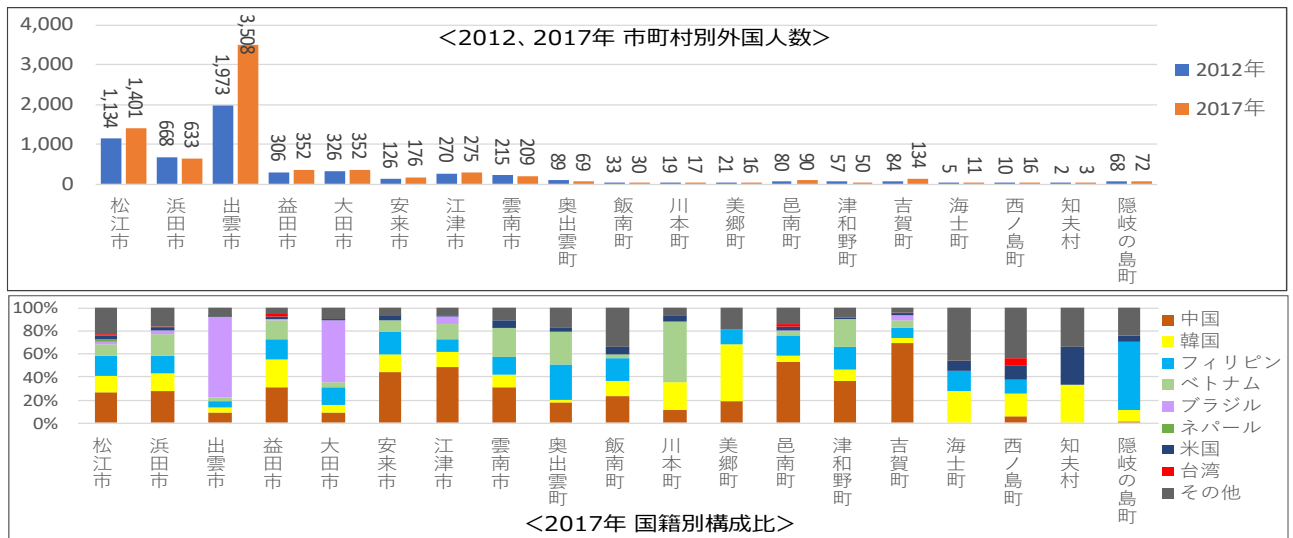
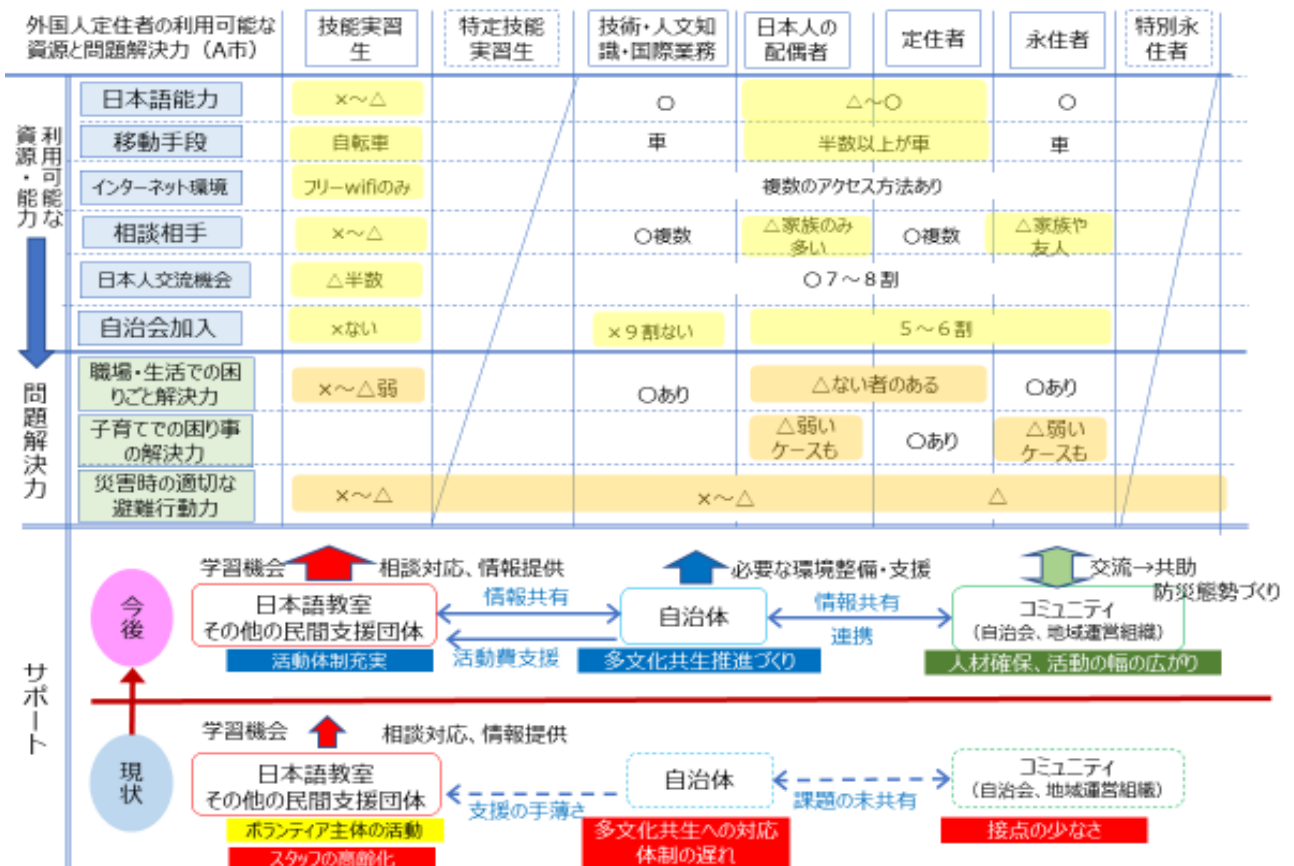


図2 中山間地域における外国人定住者の生活課題の特徴・背景と多文化共生推進に向けた体制づくりの方向性



◇連絡・問い合わせ先

島根県中山間地域研究センター 企画情報部 地域研究科
 担当 研究企画監 有田 昭一郎
 〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207番地
 TEL: 0854-76-3833 FAX: 0854-76-3758
 E-mail: arita-shouichirou@pref.shimane.lg.jp HP: <http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>